



～検査だよりは検査部が年3,4回発行している不定期広報誌です～

検査部は60周年を迎えます！

検査部 技師長
堀田 多恵子

九州大学病院検査部の歴史は1957年に始まりました。来年1月で60周年を迎えます。検査部は本院の中でも最も早くに設立された中央診療施設の一つです。その後、設備と検査項目を拡充し、現在、検体検査(第1分野:輸血、外来検査、血液、凝固 第2分野:化学、免疫、遺伝子、治験、外部委託)、第3分野(細菌検査、安全性検証ユニット)、第4分野(生理機能検査)の4つの分野で64名の技師が年間705万件の検査を行っています。

本院の検査部ではこんな検査を行っています。

- ・赤血球・白血球・血小板などの血球算定や白血球分類をする**血液検査**
- ・血液中の酵素(ALT等)、クレアチニンや血糖などを定量する**生化学検査**
- ・血液凝固や線溶を調べる**凝固検査**
- ・腫瘍マーカー、ホルモン、抗原・抗体を検査する**免疫検査**
- ・尿検査や便潜血を検査する**外来検査**
- ・ABO血液型や輸血用の製剤管理を行う**輸血検査**
- ・血栓性素因やミトコンドリア病を検査する**遺伝子検査**
- ・原因菌の培養・同定・薬剤感受性検査を行う**細菌検査**
- ・心電図、肺機能、脳波、睡眠時無呼吸解析、心臓エコーを行う**生理機能検査**



【国際規格の臨床検査室】

国際規格ISO15189認定を2006年から保持し、より品質の高い検査結果を報告するために日々努力しています。

- 精密、迅速な検査を通して、根拠に基づく医療に貢献すること
- 検査値の標準化を進めて、社会に貢献すること

これらは変わらない私たちの品質方針の一つです。

【院内において精密・迅速な検査を提供するために】

いつでも再現性の良い検査値を報告すること。これは臨床検査室の重要な使命だと考えます。安定したデータを出すことができるので、病気の進行や治療による検査値の変動を感度良く早期に反映することができます。また、診療に合わせた迅速でタイムリーな報告が重要だと思っています。今まで迅速に報告するための改善を重ねた結果、現時点は、検体が検査部に到着してから報告までの平均時間は血液検査で約10分、化学検査で約19分、凝固検査で約25分、免疫検査で約38分、外来検査は約6分です。凝固検査は8時～9時、免疫検査は9時～10時に報告が遅延傾向となる時間帯がありますが、もっと改善してさらに迅速に報告できるようにしたいと思っています。

【日本の臨床検査のために】

こんな経験はありませんか？ かかりつけ医で説明してもらった検査値と本院のような特定機能病院での検査値が大きく違っていたり、検査値は大差ないのに高値と表記されたりされなかったり。これらは臨床検査がいろいろな機器や試薬で測定され、機器や試薬が異なると測定値が異なってしまうこと、また、検査値を高い、低いと評価する基準範囲が施設によって異なることに起因します。機器・試薬は様々にあるがゆえに驚異的に発展しましたが、現状の医療機関が機能分担し、患者さんが複数の医療機関に受診する状況では不都合と混乱を発生させています。標準化は”いつでも、どこでも、臨床検査測定値を同じにする”ということです。検査部はこれからも日本の臨床検査値の標準化・基準範囲共用化を推進する力として医療に貢献していきます。

《今号の紙面》

検査部は60周年を迎えます！……p.1

国際学会に初めて参加して……p.2

鉄分検査室 第43回《安曇野逍遥》……p.3-7

検査部からのお知らせ、編集後記……p.8





国際学会に初めて参加して

植柳 泰



9月1日から4日にかけて、神戸市で開催された第32回世界医学検査学会へ参加してきました。私にとって今回が初めての国際学会ということもあり、英語をうまく話せるかな？ きちんと聞き取れるかな？ という緊張と不安のなかでの参加となりました。

私はポスターによる発表を行ってきましたが、多くの先生方からご指摘、質問を頂戴し、有意義な議論を行うことが出来ました。心配していた英語も、想像していたよりは話す機会は多くなく、無事に終わることが出来ました。

今回参加した学会は臨床検査の分野においては大きな学会であり、自分の専門とする分野以外の話も多くありました。せっかくの機会ということもあり、専門外の分野の話も積極的に聞いてきました。はじめて耳にする話がほとんどでしたが、それが逆に新鮮であり、興味深く聞くことができました。

また今回の学会では、他施設で活躍されている多くの知人、友人と顔を合わせることができました。彼らの頑張っている姿を見て、自分も頑張らなければいけないと刺激を受けました(私にとって、これが学会に参加する理由の1つでもあったりします。。。)。

今後に向けて参考となる話も聞くことができ、参加してよかったと感じました。今回の経験を少しでも活かしていけるよう、日々の業務に励んでいきたいと思えます。

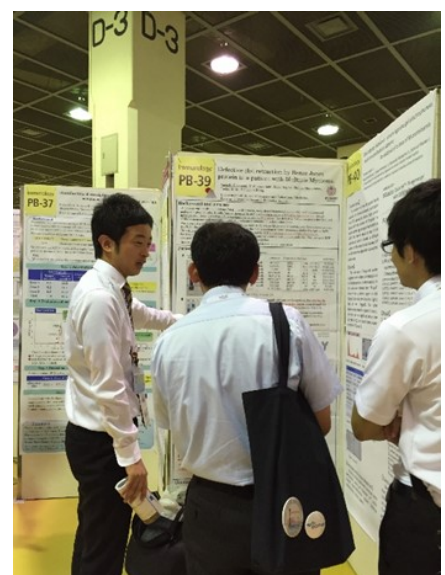
最後に、私の不慣れた英文の修正をはじめとしてご指導いただきました臨床検査医学分野の先生方、学会参加をサポートして頂いた検査部の皆様に深謝申し上げます。



ポスター前
(左から持丸、丸山、植柳、堀田技師長、清祐副技師長)



台湾からの参加者と英語でコミュニケーション



質疑応答



現在の博多駅ビル・博多シティは、九州新幹線全線開通直前の平成23年(2011)3月3日に開業した。今では都市風景になじみ先代の小豆色の博多駅ビルの記憶が薄れてきている。

この博多シティの屋上はつばめの杜ひろばとなっている。その一画に展望テラスが設けられ、福博を一望できる。展望テラスに立つと大博通りをまっすぐ見通すことができる。視線がぶつかったところに福岡サンパレスがあり、その後方に博多湾が見え、その更に先に志賀島が見える。



大博通り・志賀島

戦国末期博多は何度も戦乱に巻き込まれた。

九州統一を目指す島津勢が筑前に殺到し、天正十四年(1586)七月二十七日半月の攻防戦の末高橋紹運の立て籠もる四王寺山の岩屋城を落とした。次いで島津勢は立花山の立花山城を目指した。立花山城には紹運の長子立花宗茂が三千余の兵と立て籠もっていた。島津勢が三～四万の兵で立花山城を包囲した。宗茂は豊臣秀吉の援軍が来るまで粘り、秀吉軍の九州上陸で島津勢は困みを解き、八月二十四日撤収した。この戦乱で博多は焼野ヶ原になった。

翌天正十五年(1587)六月十日秀吉は、南蛮のフスタ船に博多商人・紙屋宗湛等と乗船し博多湾から博多を檢分した。その翌日博多町割りの指示を出した。

昭和20年(1945)6月19日福岡大空襲で、福博の市街地の大部分が焼尽にきした。焼跡を写した写真の中に、更地となった市街地の先に博多湾が見え湾内に数隻船が浮かびその先に志賀島が写っている印象的な写真がある。その光景と同じような光景が広がる中で博多再興が行われた。以前の町割りが判然とせず、焼土の中から井戸を見つけたりして、町割りが行われた。基準点は現在蔵本交叉点のあたりで市小路にあった。この基準点からの基準線の延長線の一方は志賀島に他方は太宰府に至っている。この基準線がまさに大博通りである。現在の博多の街区の骨格はこの時の太閤の町割りとも称される博多町割りの街区の構造をそのまま引き継いでいる。

この博多再興の町割りに用いられた六尺五寸四分(約2m)の間杖は、福岡大空襲の際残念なことに焼失した。

博多の秋を告げるのが筥崎宮の放生会である。筥崎宮の参道はまっすぐ博多湾に伸びている。その参道の先にも志賀島が見える。

志賀島は金印が出土した島として知られ、海の中道と連絡する側に志賀海(しかうみ)神社がある。海の神である綿津見(わたつみ)三神の底津(そこつ)綿津見神、沖津(なかつ)綿津見神、表津(うわつ)綿津見神が祭られている。

博多祇園山笠の行事の一つに御潮井(おしおい)取りがある。各流が筥崎宮の浜の砂を持ち帰りその砂を御潮井と称し、清めの砂として用いる。九州大学病院前も御潮井取りの経路にあたり御潮井取りの様子を目撃された方も多しと思う。志賀海神社にも御潮井がある。神社の歴史から勘案すると志賀海神社の方が古いと思われる。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今夏泊まりがけの所用で松本に行く機会があった。

FDAフジドリームエアラインズが、福岡・松本便を毎日2往復運行しているが、鉄分補充のため鉄路を選択。

松本駅は篠ノ井線の駅で、松本から篠ノ井線と大糸線とアルピコ交通上高地線が通じている。

当初上高地線だけを所用の合間の早朝・夕刻に乗るつもりでいたが、事前に観光ガイドブックにぱらぱらと目を通していると志賀海神社と縁のある穂高神社が、大糸線穂高駅近くにある事を知り急遽穂高駅にも立ち寄る計画を立てた。穂高神社は上高地にあるものとばかり思っていたが、上高地が奥宮で、本宮は穂高にあることを知った。

中央本線は、東京から甲府、塩尻を經由し名古屋に至る396.9kmの路線であるが、全線を走り通す列車は存在しない。篠ノ井線の分岐駅の塩尻で東西に運用が分かれ、東京・塩尻間が中央東線、塩尻・名古屋間が中央西線と呼ばれている。特急列車は、篠ノ井線松本駅に両者から乗り入れている。松本駅では、中央東線の特急<あずさ>と中央西線の特急<しなの>を見る事ができる。

今夏の北部九州は連日の猛暑で一日中蒸し風呂の中にいるようなものであった。松本駅の標高は586.0mと高



あずさ22号 松本駅



しなの 名古屋駅

原の駅であり、北部九州の猛暑から解放されるものと期待していた。ところが松本も熱く、以前投宿した時は真夏にもかかわらず夜間は気温が下がり寒いくらいであったが、今回の松本滞在中は夜間も気温が下がらなかった。全国的な異常高温と今夏はなっていた。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

松本へは所用前日に中央西線の特急<しなの>で深夜入りし駅前のホテルに投宿した。翌日早朝上高地線の下りの始発列車に乗り込んだ。

アルピコ交通上高地線は、松本・新島々(しんしましま)間14.4km、14駅の路線である。路線名の通り上高地に連絡する路線で、終点の新島々からバスに乗り継いで上高地へ至る。

始発電車でそのまま終点まで乗りたいところ朝の持ち時間が短く2駅目の渚駅で下車し、予め地形図で確認していた奈良井川鉄橋を目指した。奈良井川を渡河する電車を北アルプスの山々を背景に見物しようという算段であったが、北アルプスは雲に遮られて見えず。鉄橋のたもとで電車がやってくるまでたずん



上高地線松本駅

でいると、朝の通勤の車がどんどん通り過ぎていった。朝の忙しい時間帯に怪しい挙動不審人物に見えていたに違いない。

朝の鉄分補給を済ませ8時半には用件の場所に到着。

夕刻松本駅へ用件終了後急行し再び上高地線に乗車した。今度は終点の新島々まで乗車した。車内は帰りの地元の利用客と上高地方方面へ向かう観光客や登山客が混在していた。



上高地線奈良井川

新島々駅は、松本平が尽きて、北アルプスの山塊にいよいよぶつかる位置にある。ここまで来るとバスを乗り継いで上高地まで足を伸ばしたいのはやまやまだだったが、「回れ右！」で松本行き上り電車に乗車した。日没前の残された時間を利用し上高地線のいくつかの駅に下車して鉄道見物を続けた。

ところで旧制松本高校出身の北杜夫も在学中上高地線に乗っている。



そこで私はリュックザックに乏しい食料をつめ、島々行きの上高地線に乗った。島々の宿場から郵便局の横を右手に折れる。これがバス路線とは別の、穂本(とくごう)峠を越える道であった。当時、バスはとうに沢渡(さわんど)まで通じていたが、ながい径のりを歩いてようやく穂高をみるという道程に私は期待した。それに、穂本峠の上から眺める穂高は絶品でもある。 <とくとるマンボウ青春記>

北杜夫が下車した島々駅は今は無い。新島々駅から更に1.3km上高地方に進んだところに島々駅はあったが、昭和58年(1983)9月28日に台風による土砂災害で新島々・島々間が不通となり、その後復旧工事が行われないうまま昭和60年(1985)1月1日廃止となった。幸いな事に旧島々駅駅舎は、新島々駅と道路を挟んだ向かい側に対面する形で移築されている。



新島々駅駅舎



旧島々駅駅舎

旧制松本高校の校舎は一部現存し、あがたの森公園となっていて見学できる。その一画に旧制高等学校記念館があり、北杜夫のコーナーが設けられている。また同じく旧制松本高校出身の辻邦夫のコーナーも設けられている。

所用2日目の早朝も上高地線の始発電車に乗り北アルプスを背景に走る電車を見ようと試みたが、この日も北アルプスの山々は雲に遮られて見られないままになった。



あがたの森公園

「神合地」あるいは「神降地」から転じたもの。上高地の明神池畔に穂高見命を祭る穂高神社奥宮が鎮座し、日本第3位の標高3,190mの北アルプスの主峰・奥穂高岳山頂に穂高神社嶺宮(みねみや)が鎮座する。穂高神社では、7年毎に神職と氏子総代や一般参加希望者で嶺宮登拝を行っている。次回は平成29年(2017)7月に予定されている。

＜時刻表2万キロ＞で知られる宮脇俊三も上高地を訪れている。

私をはじめ上高地を訪れたのは昭和十八年の夏だった。戦争中のこととて、バスは途中の沢度(さわんど)までしかなく、登りの砂利道を、三、四時間歩かねばならなかったが、こんな美しいところが日本にあるのかと感心した。 <上高地鉄道>

その後も彼は何度も訪れている。現在上高地への道はマイカー制限で路線バス、タクシー、緊急車両のみ通行可となっている。上高地への足の確保としてスイスのツェルマットの事例を参考に<上高地鉄道>を提案している。ツェルマットでは8km手前でマイカーや観光バスは止められ、そこから鉄道で向かうようになっている。上高地も同じように山岳鉄道を敷設して環境を保全したらどうであろうかというもの。地形図から路線を設計し、鉄道のダイヤグラムまで作製している。実現してもらいたい夢の山岳鉄道である。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

所用2日目の午後遅く大系線に乗り松本から10駅目の穂高駅へ向かった。

大系線は、松本・糸魚川間105.4kmの路線で42駅ある。全通したのは戦後で、昭和32年(1957)8月15日の事である。

松本の市街地を抜けると安曇野の田園風景が広がる。大系線と並行して左手に3千m級の大山塊である北アルプスが横たわって見える。

穂高駅駅舎は、穂高神社最寄駅として風格のある平屋瓦葺の駅舎であった。駅舎のホーム側に等身大の人形が飾ってあった。穂高神社を訪れて分かったのだが穂高人形が飾ってあったのだった。

穂高神社は駅前の通りを進むと徒歩数分のところにあった。境内は広く社殿も立派である。

穂高神社は、海の神の綿津見神とその御子の穂高見命と邇邇芸命(ににぎのみこと)を祭神としている。<新撰姓氏録(しんせんしょうじろく)>には、

「山の日」が今年から国民の祝日として施行された。これを記念した第1回山の日記念全国大会が、8月11日の山の日に標高約1,500mの上高地で開催された。松本でちょうど開催中の「セイジョザワ松本フェスティバル」の出演者から特別編成した「セイジョザワ松本アンサンブル」の演奏が披露され、ヘンデルの<王宮の花火の音楽>の<序曲>と<歓喜>や<サウンド・オブ・ミュージック>の<エーデルワイス>や<ドレミの歌>等が演奏された。

穂高の山塊を源にする清冽な流れの梓川に架かる河童橋周辺の眺めは絶景。第1回の開催地に選ばれるにはふさわしい場所である。

上高地の地名は、海の神である綿津見神の御子の穂高見命(ほたかみのみこと)が穂高岳に降臨した事に由来し、

穂高見命(ほたかみのみこと)が穂高岳に降臨した事に由来し、



穂高駅

安曇宿禰（あづみのすくね）、海神綿津見豊彦神の子、穂高見命の後なり

と、記されてある。志賀島を本拠地としていた海人族である安曇族が、何らかの理由で日本海沿いに北上し、安曇野に移住してきたものと見られている。

博多の「おきゅうと」とそっくりの「えご」を安曇野では食している。内陸にもかかわらず海藻の食文化があるのも移動してきた証拠の一つではないかと考える研究者もいる。

穂高神社最大の年中行事は、9月26・27日に催される御船祭（おふねまつり）である。大人船二艘と子供船三艘が囃子方を乗せて町内を巡行する。まさに海人族の記憶が継承されている。穂高神社に限らず安曇野の他の神社の祭りにも船が登場する。

陸上交通が発達するまでは、大量の物資の輸送は水運が最適であった。海ばかりではなく、河川の水運も盛んであった。内陸の安曇野の水運は河川という事になる。ところが御船祭に登場する長さ12mの大人船は、境内にある御船会館という資料館で実物を見る事ができるが、どうみても川船ではなく外洋船を連想する形をしている。奥穂高岳を主峰とする北アルプスに囲まれた安曇野にしながら海の記憶を忘れずに伝えている。

これらの船に穂高人形が飾りつけられる。博多祇園山笠では山笠の標題は毎年変わり、特に飾り山では複数の人形を配して或る物語の一場面を再現している。御船祭りも複数の穂高人形を飾り年毎に異なる或る物語の場面を再現している。例えば平成26年（2014）の等々力町区の御船は、＜高松城の水攻め＞の標題でまるで歌舞伎の一場面かのような結構になっている。

御船会館では、御船祭の映像が上映されている。町内を巡行するだけと思っていたらそうではなかった。あっと驚いてしまった。御船祭の最大の見せ場は、拝殿前で行われる囃子方が乗ったまま二艘の大人船をぶつけ合うもの。



穂高駅・穂高人形

白村江の戦いが、天智天皇二年（663）八月二十七・二十八日倭国・百濟連合軍と唐・新羅連合軍の間で行われた。この戦いの指揮官の一人として、安曇比羅夫が参戦していた。倭国・百濟連合軍は大敗し、この戦いで安曇比羅夫は戦死した。その命日に白村江の戦いを再現し鎮魂のために斎行される祭りである。

御船祭は、時期的に一般的な収穫を感謝する秋祭と思い込んでいたが、白村江の戦いを記憶する祭であった。白村江の戦いを伝える祭が存在する事に驚倒した。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

穂高神社は、伊勢神宮や出雲大社同様に遷宮を行っている。20年毎に大遷宮が行われている。またその間7年毎に小遷宮が行われ、傷んだ神殿を修繕している。直近の大遷宮は、平成21年（2009）に斎行された。今年はそれから7年目に当たり小遷宮が斎行された。

その一連の行事の一つとして5月5日に「玄海の砂持ち行事」が行われた。志賀島の海岸の砂を「御潮井」として氏子らが本殿の周囲に敷き詰め清めた。安曇野に玄界灘の潮騒が木霊している。



検査部からのお知らせ



平成28年9月1日(木)からの臨床検査の変更をお知らせします。

「EDTA依存性偽性血小板減少」対応の検査オーダーを新規作成しました

偽性血小板減少症(EDTA依存性偽性血小板減少症:EDP)とは、

通常、血小板数測定には抗凝固剤(EDTA)が用いられますが、このEDTAの作用によりかえって血小板が凝集塊を形成することがあり(発生頻度0.03~0.1%と云われています)、自動血球計数器がこの凝集塊を一つの細胞と認識すると、見かけの血小板減少症となってしまいます。9月1日よりこの対策として下記の依頼が可能になります。

【血液凝固検査】血液検査

項目名:EDP(PLTのみ)

採血管:3.2%クエン酸ナトリウム 1.8mL(凝固用採血管)

検査結果は血小板値及び血液塗抹標本(コメントのみ)となります。

提出の際は、通常のCBCオーダー(EDTA-2K採血管)と共に提出をお願いします。

ご不明な点は血液検査室までお尋ね下さい。

問い合わせ先:血液検査 内線(5758)

HbF 院内測定開始

下記の項目を外部委託検査から院内検査へ変更いたします。

【血液凝固検査】

項目名:HbF

検査方法:高速液体クロマトグラフィー法(HPLC)

単位:%

基準範囲:0.3~1.3%(成人)

問い合わせ先:検体検査室(5756、5754)

詳細は院内HPの検査通報をご覧頂くか、もしくは検査部までお問い合わせください。

編集後記

晩秋の候、皆様におかれましては健やかに過ごしのことと存じます。インフルエンザの流行の時期になりました。検査部も少しでも流行を阻止する啓蒙活動を行っています。検査も簡単ですので皆様、早めのCheckをお願いします。60周年を迎える検査部ですが伝統の重さを感じます。今後も培った伝統に胡坐をかくのではなく未来を見据えた検査部にしていく所存です。

内海健

